

**2019年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）**

2018年7月31日

上場会社名 積水化成工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4228 URL <http://www.sekisuiplastics.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 正人  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 佐々木 勝巳  
 コーポレート戦略本部長 TEL 03-3347-9618  
 四半期報告書提出予定日 2018年8月10日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2019年3月期第1四半期の連結業績 (2018年4月1日～2018年6月30日)

## (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	26,102	△0.3	447	△51.8	512	△49.3	338	△48.2
2018年3月期第1四半期	26,184	12.9	927	16.1	1,010	66.1	653	54.0

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 △839百万円 (-%) 2018年3月期第1四半期 2,108百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	7.48	—
2018年3月期第1四半期	14.26	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	129,889	64,566	49.2
2018年3月期	131,148	66,145	49.9

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 63,882百万円 2018年3月期 65,414百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	12.00	—	15.00	27.00
2019年3月期	—	—	—	—	—
2019年3月期 (予想)	—	13.00	—	17.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

## 3. 2019年3月期の連結業績予想 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	57,000	4.2	2,500	△8.4	2,400	△12.2	1,600	△10.9	35.33
通期	120,000	7.0	6,800	28.7	6,600	28.1	4,400	27.6	97.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：有
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期1Q	46,988,109株	2018年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2019年3月期1Q	1,696,447株	2018年3月期	1,696,143株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期1Q	45,291,889株	2018年3月期1Q	45,860,741株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（日付の表示方法の変更）

「2019年3月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(会計方針の変更) .....	9
(追加情報) .....	9
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年6月30日)の世界経済は、欧米を中心に総じて景気回復傾向が続いているものの、米国政権の追加関税に対し、中国や欧州が対抗措置を表明するなど、貿易摩擦の強まりに伴う輸出環境への懸念などから先行き不透明感が強まっています。日本経済は、個人消費の持ち直しなど緩やかな回復基調が持続していますが、日本の発泡プラスチック業界におきましては、原油価格が当四半期に入り上昇を続け、原燃料価格や物流コストが値上がりする一方で、川下の小売業界ではネット通販の台頭などもあって、価格調整に時間を要する状況となっており、収益面で厳しい経営環境となりました。

このような経営環境のなか、当社グループは2016年度からの3カ年中期経営計画「Make Innovations 60」の最終年度を迎え、「事業ポートフォリオ変革」と「収益構造革新」を進めるべく、施策を着実に推進しております。当第1四半期連結累計期間は、自動車、医療・健康関連を中心に工業分野の伸長は続いています。また、建材・土木関連を中心に生活分野の需要が低調であったことに加え、原燃料価格などの上昇に対し、製品価格の改定が追いつかず、収益が悪化しました。その結果、売上高は261億2百万円(前年同期比0.3%の減少)、営業利益は4億4千7百万円(前年同期比51.8%の減少)、経常利益は5億1千2百万円(前年同期比49.3%の減少)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億3千8百万円(前年同期比48.2%の減少)となりました。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

## &lt;生活分野&gt;

生活分野の売上高は147億1千万円(前年同期比4.0%の減少)、セグメント利益は2億7百万円(前年同期比65.0%の減少)となりました。

食品容器関連は電子レンジ加熱に対応した耐熱容器などの需要が引き続き好調となりましたが、建材・土木関連の需要は低調に推移しました。また、関連仕入商品の販売減が前年同期比減収要因となりました。

主力製品では、「エスレンシート」(発泡ポリスチレンシート)は売上数量・金額とも前年同期を上回りましたが、「エスレンビーズ」(発泡性ポリスチレンビーズ)は売上数量・金額とも前年同期を下回りました。売上単価は製品価格の改定により、ともに前年同期を上回りましたが、原燃料価格の上昇に追いつかず、収益が悪化しました。

開発品では、土木関連資材の樹脂製雨水貯留浸透構造部材「アクアロード」に注力しています。「アクアロード」はゲリラ豪雨の冠水対策として、車道の下にも適応可能な部材で、道の駅や宅地造成などに採用されました。雨水貯留の性能に加えて、輸送・保管時の収納性や施工性がよい特長を活かして、国・地方公共団体等に積極的に展開・拡販しています。

## &lt;工業分野&gt;

工業分野の売上高は113億9千1百万円(前年同期比4.9%の増加)、セグメント利益は4億7千2百万円(前年同期比23.7%の減少)となりました。

家電・IT関連では、「ピオセラン」(ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体)などを用いた液晶パネル搬送資材用途において、前年同期に好調であった台湾での需要が一巡となりました。「テクポリマー」(有機微粒子ポリマー)は、液晶パネルなどの光拡散用途や塗料用途において堅調に推移しました。自動車関連では、「ピオセラン」などを用いた部材用途において、グローバルに採用部位が拡大しました。医療・健康関連では、「テクノゲル(ST-gel)」(機能性高分子ゲル)が、低周波治療器用パッドや化粧品用パック材などで好調に推移しました。

5月に米国で開催された世界三大プラスチック総合展「NPE 2018 The Plastics Show」に出展しました。当社ブースは、「Your Partner for a Better Future(未来(あした)を創るパートナー)」をコンセプトに、様々な素材を基軸に付加価値を創造する技術を活かした新製品を紹介しました。当社ブースでは多数の活発な商談が行われ、当社ブランドの浸透が図れた有意義な展示会となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、1,298億8千9百万円(前連結会計年度末比12億5千8百万円減)となりました。資産の部では、流動資産が受取手形及び売掛金の減少などにより11億7千8百万円減少し、固定資産が投資その他の資産の減少などにより8千万円減少しました。負債の部では、短期借入金から長期借入金への借換などにより、流動負債が25億7千万円減少した一方で、固定負債が28億9千2百万円増加しました。純資産は、その他有価証券評価差額金の減少などにより15億7千9百万円減少して645億6千6百万円となり、自己資本比率は49.2%となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の減少などにより、前年同期に比べ4億7百万円収入が減少し、4億3千2百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の増加などにより、前年同期に比べ7億2千9百万円支出が増加し、18億4千1百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入が増加したことなどにより、前年同期に比べ12億5千4百万円収入が増加し、14億1千7百万円の収入となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ1千4百万円減少し、51億3百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期は、生活分野では需要期を迎え売上が増加することや、製品価格改定が浸透することが見込まれ、工業分野では引き続きグローバルでの拡販を見込んでおります。2018年4月25日に公表した2019年3月期連結業績予想からの変更はありません。

なお、7月に発生した西日本豪雨による損害額および当社グループの業績に与える影響につきましては現在調査中であり、今後重大な影響が見込まれる場合には速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,123	5,108
受取手形及び売掛金	30,367	28,255
電子記録債権	3,001	2,700
商品及び製品	7,166	7,898
仕掛品	194	170
原材料及び貯蔵品	3,071	2,970
その他	826	1,464
貸倒引当金	△71	△67
流動資産合計	49,680	48,501
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,548	16,285
機械装置及び運搬具(純額)	11,330	11,821
土地	20,955	21,129
その他(純額)	6,014	5,823
有形固定資産合計	53,849	55,059
無形固定資産		
のれん	73	68
その他	963	1,044
無形固定資産合計	1,037	1,113
投資その他の資産		
投資有価証券	19,844	18,430
退職給付に係る資産	5,194	5,285
その他	1,595	1,554
貸倒引当金	△54	△55
投資その他の資産合計	26,580	25,215
固定資産合計	81,468	81,388
資産合計	131,148	129,889

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,418	16,801
電子記録債務	8,530	8,141
短期借入金	12,124	11,038
未払法人税等	1,050	189
賞与引当金	1,023	609
役員賞与引当金	29	8
その他	7,294	8,110
流動負債合計	47,470	44,899
固定負債		
長期借入金	6,972	10,226
退職給付に係る負債	3,011	3,031
製品補償引当金	244	228
その他	7,302	6,937
固定負債合計	17,531	20,423
負債合計	65,002	65,323
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,544	16,532
利益剰余金	20,699	20,359
自己株式	△1,425	△1,425
株主資本合計	52,352	51,999
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,168	9,159
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	235	164
退職給付に係る調整累計額	1,179	1,080
その他の包括利益累計額合計	13,061	11,882
非支配株主持分	731	683
純資産合計	66,145	64,566
負債純資産合計	131,148	129,889

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
売上高	26,184	26,102
売上原価	19,977	20,245
売上総利益	6,207	5,857
販売費及び一般管理費	5,279	5,410
営業利益	927	447
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	143	160
為替差益	12	—
その他	25	21
営業外収益合計	184	184
営業外費用		
支払利息	36	41
持分法による投資損失	1	0
為替差損	—	0
その他	62	76
営業外費用合計	100	119
経常利益	1,010	512
特別利益		
投資有価証券売却益	2	—
特別利益合計	2	—
特別損失		
投資有価証券評価損	9	—
特別損失合計	9	—
税金等調整前四半期純利益	1,003	512
法人税等	348	173
四半期純利益	655	338
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	653	338



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	655	338
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,479	△1,008
為替換算調整勘定	72	△71
退職給付に係る調整額	△99	△98
その他の包括利益合計	1,452	△1,178
四半期包括利益	2,108	△839
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,106	△839
非支配株主に係る四半期包括利益	1	△0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,003	512
減価償却費	1,001	1,018
のれん償却額	5	5
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△3
受取利息及び受取配当金	△146	△162
支払利息	36	41
持分法による投資損益(△は益)	1	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	△360	△414
製品補償引当金の増減額(△は減少)	△58	△16
退職給付に係る資産負債の増減額	△213	△207
投資有価証券売却損益(△は益)	△2	—
投資有価証券評価損益(△は益)	9	—
固定資産売却損益(△は益)	11	16
売上債権の増減額(△は増加)	217	2,308
たな卸資産の増減額(△は増加)	△544	△617
仕入債務の増減額(△は減少)	185	△921
その他	△36	△417
小計	1,109	1,142
利息及び配当金の受取額	145	162
利息の支払額	△38	△36
損害保険金の受取額	0	0
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△377	△837
営業活動によるキャッシュ・フロー	840	432
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,238	△1,873
有形固定資産の売却による収入	39	5
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	51	—
貸付けによる支出	△2	△2
貸付金の回収による収入	30	16
その他	9	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,111	△1,841
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	300	△1,197
長期借入れによる収入	2,400	6,000
長期借入金の返済による支出	△1,916	△2,611
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△529	△657
非支配株主への配当金の支払額	△0	△2
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△58
その他	△89	△55
財務活動によるキャッシュ・フロー	163	1,417
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	△24
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△88	△14
現金及び現金同等物の期首残高	6,266	5,117
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,177	5,103

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(在外子会社の収益及び費用の換算方法の変更)

在外子会社の収益及び費用は、従来、決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。

この変更は、近年在外子会社の収益及び費用の重要性が増しており、今後、さらに海外比重が高まることを見込まれるため、昨今の為替相場の変動を鑑み、会計期間を通じて発生する在外子会社の損益をより適切に連結財務諸表に反映させるために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,325	10,859	26,184	—	26,184
セグメント間の内部売上高 又は振替高	854	340	1,194	△1,194	—
計	16,179	11,199	27,379	△1,194	26,184
セグメント利益	592	618	1,211	△200	1,010

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△200百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△200百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、  
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、  
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,710	11,391	26,102	—	26,102
セグメント間の内部売上高 又は振替高	778	347	1,126	△1,126	—
計	15,489	11,739	27,229	△1,126	26,102
セグメント利益	207	472	680	△167	512

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△167百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△167百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、  
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、  
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など